

2021年度

事業計画書

公益財団法人 日産厚生会

当会の2021年度の事業活動計画は以下のとおりである。

1. 医学研究の推進

医学研究所の統括の下、各施設がそれぞれの施設特性に応じた臨床医学研究や予防医学研究の活動を実践し、その成果を学会発表や学術論文として外部に発信すると共に、医学フォーラムや院内研修会等を通じて、知識・技術の普遍化を促し、厚生会全体の医療水準の向上を図る。

①医学研究所

各施設の研究計画、研究活動を統括すると共に、関係諸学会への参画(リモートを含む)を継続的に支援する。延期した第7回及び第8回の医学フォーラムを主催し、各施設・各部門の日々の研究成果の発表機会を提供すると共に、全体の研究マインド向上を図る。

昨年度に引き続き、玉川病院と他施設、特に佐倉厚生園病院との共同研究や共同発表等への取組みの具現化を推進し、厚生会全体としてより一層の研究活動実績向上を支援する。

②玉川病院

各研究センター(透析、気胸、ヘルニア、股関節、リハビリ)・診療部・医療技術部及び看護部それぞれにおける研究活動への取組みを推進すると共に、研究成果の啓発・普及を図る。

③佐倉厚生園病院・玉川クリニック・診療所他

医学研究所との連携を密にして、各々の施設特性に応じた研究活動を推進する。

- ・回復期・慢性期病棟における看護やNSTの介入効果に関する研究
- ・禁煙対策に関する研究
- ・健診データ等の集積と分析による予防医学研究

各施設における具体的な研究・調査の内容については4頁以降の(別表)のとおり。

2. 社会への貢献

(1) 医療活動の質の向上

それぞれの施設状況に応じ、救急医療体制の充実化、総合診療体制の整備、大学病院等高度先進医療機関との連携強化、チーム医療の実践強化等の取組みを進展させ、提供する医療の質の向上に務める。

(2) 保健予防活動、健康普及啓発活動の推進

各施設において、人間ドック、成人病検診、乳がん検診その他各種検診での検査項目の充実や検査精度の向上による、疾病予防や早期発見に努めると共に、各検診の受診率向上を図る。

玉川病院や佐倉厚生園病院では、従来から行っている各種教室(糖尿病教室、腎臓病教室、呼吸リハビリテーション教室等)、病院祭や看護の日といった一般市民向け院内公開行事等やAED講習会、熱中症講習会、市民公開講座等の院外における啓発活動等については、新型コロナウイルス感染予防対応の制約のもと、可能な範囲で実施する。

また、診療所やクリニックにおいては、産業医としての講演活動等において、禁煙指導や生活習慣病予防等をはじめとする、様々な健康普及啓発活動を展開する。

更に、玉川病院では、世田谷区・地域保健所・医師会等の要請に応え、医師、看護師、PT・OT及びST等を、講演会・講習会に講師として派遣し協力する。

3. 教育・人材育成の推進

(1) 初期臨床研修医・内科専攻医及び特定看護師の育成、医学部実習生の受入れ

(玉川病院)

- ・ 基幹型臨床研修病院及び協力型臨床研修病院として、初期臨床研修医の育成を行う。
- ・ 新専門医制度における内科領域の基幹病院として、専攻医の育成を行う。さらに連携病院として関連病院からの要請により、専攻医を受入れ育成を行う。
- ・ 特定行為に係る看護師研修制度における指定研修機関として、看護師の育成を行う。
- ・ 関連大学からの要請により、医学部実習生を受入れ実習指導を行う。

(佐倉厚生園病院)

- ・ 協力型臨床研修病院として、初期臨床研修医の育成を行う。

(2) その他医療・介護関連の実習指導

玉川病院、佐倉厚生園病院、佐倉ホワイエにおいては、医療、看護、リハビリ、臨床検査、栄養、薬剤、メディカル・ソーシャル・ワーカー、介護福祉、医療事務等の学生に対し、実習指導を行うとともに、要請に応じて講師の派遣を行う。

4. 医療活動の推進及び設備の充実

(1) 当年度の想定患者数、健診者数は、各施設とも新型コロナウイルス対応を講じた中で3頁（参考）のとおり見込んでいる。

(2) 機器・設備の整備等

(玉川病院)

- ① ナースコールシステム入替により、患者対応のスムーズ化を図る。
- ② 人事システムのバージョンアップ実施により、個別就労状況の見える化を図り、職員の働き方改革を推進する。
- ③ 南棟1階・病室系統空調機を交換し、患者環境の向上・充実化と省電力化を図る。
- ④ 手術室の滅菌機を更新し、手術用具滅菌機能の充実を図る。
- ⑤ 東病棟の変電設備を更新し、電気設備系統の機能の向上を図る。

(佐倉厚生園病院)

- ① 新館外壁等大規模修繕工事を実施し、診療及び療養環境の向上を図る。
- ② CTを更新し、画像診断の精度向上と迅速化を図る。

(玉川クリニック)

- ① 健診科受付窓口の新設により一般外来受付との分離を図り、患者対応の効率化を図る。
- ② 内視鏡用洗浄機器を更新し、検査業務の効率化を図る。

(診療所)

- ① ポストコロナ時代への対応として、オンライン診療やキャッシュレス決済等を導入し、地域社会で働く患者への対応を強化する。

(ホワイエ)

- ① 本館空調設備の一部（チラー）を更新し、療養環境の改善を図る。

以上

(参考)

想定患者数、健診者数等

(1) 入院患者数 (単位:人)

種 別	玉 川 病 院			
	2021年度予算		2020年度見込	一日平均 の増減
	延人員	一日平均	一日平均	
一 般	87,520	239.8	210.8	29.0
回復期リハ	12,775	35.0	33.6	1.4
地域包括ケア	12,414	34.0	33.9	0.1
計	112,709	308.8	278.3	30.5
2020年度見込	101,577			
対前年度見込	111%			

(単位:人)

種 別	佐 倉 厚 生 園 病 院			
	2021年度予算		2020年度見込	一日平均 の増減
	延人員	一日平均	一日平均	
療 養	49,007	134.3	133.1	1.2
回復期リハ	15,756	43.2	43.2	0.0
計	64,763	177.4	176.3	1.1
2020年度見込	64,344			
対前年度見込	101%			

(2) 外来患者数 (単位:人)

科 別	玉川病院		佐倉厚生園病院		診療所		玉川クリニック	
	延人員	一日平均	延人員	一日平均	延人員	一日平均	延人員	一日平均
2021年度予算	181,960	621.0	18,327	62.8	12,898	53.3	22,590	73.3
2020年度見込	162,800	555.6	17,151	58.5	10,736	44.2	18,931	63.1
対前年度見込	112%	65.4	107%	4.3	120%	9.1	119%	10.2

(3) 健診者数 (単位:人)

種 別	玉川病院	佐倉厚生園病院	診療所	玉川クリニック	合 計
	延人員	延人員	延人員	延人員	延人員
各種健診	6,297	10,278	15,207	5,060	36,842
人間ドック	517	2,570	1,244	590	4,921
計	6,814	12,848	16,451	5,650	41,763
2020年度見込	6,089	12,236	16,536	5,382	40,243
対前年度見込	112%	105%	99%	105%	104%

(4) 佐倉ホワイエ利用者数 (単位:人)

区 分	入所延人員	1日平均	通所延人員	1日平均
2021年度予算	28,835	79.0	9,856	32.0
2020年度見込	28,506	78.1	9,763	31.7
対前年度見込	101%	0.9	101%	0.3

(別表) 研究・調査

I. 玉川病院

1. 研究センター

(1) 透析センター・腎臓内科

- ①外来における慢性腎臓病（CKD）チーム医療の透析導入患者に及ぼす影響（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士）
- ②CKD 患者の心血管合併症に対するチーム医療の有用性（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士）
- ③玉川 CKD 対策ネットワークの構築と有用性（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士）
- ④維持透析患者に合併する下肢末梢動脈病変（PAD）および重症虚血肢（CLI）に対する LDL 吸着療法の効果（医師・看護師・臨床工学技士）
- ⑤臨床工学技士による血管エコーを用いた血液透析患者のバスキュラーアクセス管理の有用性（医師・臨床工学技士）
- ⑥外来維持血液透析患者に対する透析中の運動療法の臨床効果（医師・理学療法士）
- ⑦腹膜透析（PD）療法の地域における普及への取り組み（医師・看護師・臨床工学技士）
- ⑧透析センターにおける災害対策活動の取り組み（医師・看護師・臨床工学技士）

(2) 気胸研究センター

①LAM

- 1) リンパ脈管筋腫症の組織培養法の検討
- 2) シロリムス投与に対する気胸発症の予防効果

②BHD 症候群

- 1) BHD 症候群に対する DNA 解析と疫学調査
- 2) BHD 症候群における皮膚病変の臨床および病理組織学の検討
- 3) BHD 症候群における腎病変および肝病変の MRI 画像診断の検討

③胸腔子宮内膜症

- 1) 胸腔子宮内膜症における横隔膜 MRI 診断の有用性
- 2) 胸腔子宮内膜症における病期分類の有用性
- 3) 胸腔子宮内膜症における胸水培養による診断法
- 4) 胸腔子宮内膜症の発症メカニズムの解明と新しいバイオマーカーの検討
- 5) 胸腔子宮内膜症の胸壁および肺病変の病理学的検討
- 6) 胸腔子宮内膜症の術後再発に対する TPC 治療の検討
- 7) 術前局所麻酔下胸腔鏡検査の有効性

④その他

- 1) 成人自然気胸の術後再発予防に対する dual covering 法の効果
- 2) 若年性肺気腫の画像診断と病理組織の検討
- 3) 青年期原発性自然気胸の術後再発様式の検討
- 4) 若年性肺気腫の病態解明
- 5) 特発性血気胸の実態調査
- 6) 難治性遷延性気漏の治療法として TGF 治療の有効性
- 7) 女性自然気胸の原因診断における胸部 CT の有用性
- 8) 間質性肺炎における難治性気漏に対する胸腔鏡下気管支塞栓術の検討
- 9) マルフアン症候群における気胸の臨床的検討

(3) ヘルニアセンター

- ①日本ヘルニア学会鼠径ヘルニア分類の改訂への対応
およびガイドラインにおける治療前診断と診断方法などの改訂作業
- ②鼠径部ヘルニアの画像診断と臨床実績の対比・研究（継続）

- ③小児腹腔鏡下ヘルニア修復術（LPEC 法）の展開（継続）
- ④女性 Nuck 管水腫と子宮内膜症の関連に関する臨床的研究（継続）
- ⑤腹腔鏡下修復術の病態別個別化の研究
- ⑥De Novo 型、Sliding 型ヘルニアの病態と治療戦略の研究
- ⑦前立腺癌、膀胱癌術後症例に対する安全・確実な治療法の研究と開発
- ⑧鏡視下手術再発危険群の検討とその対策の研究
- ⑨腹壁癒痕ヘルニアの腹腔鏡下治療の導入と研究
- ⑩抗凝固剤、抗血小板剤等服用症例に対する治療戦略の確立
- ⑪嵌頓ヘルニアの鏡視下手術による治療戦略の確立
- ⑫術後慢性疼痛症例に対するハイブリッド治療の研究
- ⑬精索脂肪腫、腹膜前脂肪腫と鼠径ヘルニアに関する研究

(4) 股関節センター

- ①変形性股関節症に対する新しい人工関節治療法の研究の継続
- ②Corail 型 ステムの臨床比較（佐藤啓）
- ③SSIにおける α -defensin 判定効果の検討(木村晶理)
- ④日本人の正常骨盤・股関節の形態計測(前川唯)
- ⑤人工股関節再置換術手術手技における適応と術式決定法の確率（奥田直樹）
- ⑥変形性股関節症の発症メカニズムの解明
- ⑦大腿骨近位部骨折治療法の確立と術後有害因子の検討
- ⑧Metal on Metal 人工股関節置換術の術後成績(佐藤敦子)
- ⑨大腿骨近位形態の異常と臨床的ステム前捻の相違における検討(佐藤敦子)
- ⑩ステム形状の相違に伴う術後初期荷重の相違についての検討(松原正明)
- ⑪MAKO robotic surgery THA における問題点と解決法の検討(佐藤啓、松原正明)
- ⑫THA における forgotten joint をもたらす因子の検討(木村晶理)
- ⑬インプラント周囲骨折に対する治療法の検討と確立(加瀬雅士)
- ⑭Periprosthetic joint infection(PJI)に対する治療法の検討(佐藤啓)
- ⑮THA 術後患者の炎症所見の経時的変化の相違について(前川唯)
- ⑯近位固定型 stem(Metha)の臨床成績に影響する因子の検討(木村晶理)

(5) リハビリテーションセンター

- ①歩行同調型自立支援ロボットを用いた整形外科疾患、脳神経疾患でのリハビリへの応用とその改善に関する検討
- ②経頭蓋直流刺激、経頭蓋反復時期刺激を用いた脳卒中後高次脳機能障害、運動麻痺の改善に関する検討
- ③痙縮に対するボトックス治療での効果の検討
- ④タブレットを用いた失語症自習プログラムの開発とその効率的活用に関する検討

2. 各診療科

(1) 循環器内科

- ①多職種チームによる心不全患者教育入院についての検討
- ②Rapid Response System(院内迅速対応システム)による院内急変の早期発見、予防についての検討
- ③心肺運動負荷試験による慢性腎不全患者と健常者の比較
- ④下腿浮腫患者の計画入院についての効果検討(フットポンプによるリンパ浮腫改善、検査、教育目的入院についての検討)
- ⑤心不全患者の外来指導と地域連携の確立についての検討

(2) 呼吸器内科

- ①呼吸器疾患患者の身体活動量の経年的変化に関する研究
- ②呼吸器疾患患者の四肢筋肉量の経年的変化に関する研究
- ③呼吸器疾患患者の6分歩行試験の経年的変化に関する研究
- ④慢性咳嗽患者における呼気一酸化窒素測定の有効性に関する研究
- ⑤呼吸器疾患患者の入院バリエーションの研究
- ⑥呼吸器疾患患者のポリファーマの実態に関する研究
- ⑦呼吸器疾患患者の効率的な継続指示（入院）に関する研究
- ⑧呼吸器疾患患者のACPの現状に関する研究
- ⑨超音波気管支鏡検査（EBUS+TBNA, EBUS+GS）の臨床成績に関する研究
- ⑩COVID-19入院患者の臨床像に関する検討
- ⑪COVID-19患者の診断における各種迅速検査法の比較検討

(3) 消化器内科

- ①除菌後胃癌の臨床的特徴
- ②胃瘻造設患者とサルコペニア
- ③上部消化性潰瘍と抗血栓薬
- ④炎症性腸疾患における新薬の効果の検討
- ⑤慢性便秘の診療の現状

(4) 糖尿病代謝内科

- ①当院の2型糖尿病患者に対するSGLT2阻害薬の脂質への効果と背景因子
- ②当院の2型糖尿病患者に対するSGLT2阻害薬の尿酸への効果と背景因子
- ③血尿陰性の2型糖尿病患者での腎機能評価、early declinerの臨床像と患者背景
- ④リラグルチドの保険適応量増加に伴う使用薬剤の変化について

(5) 脳神経内科

- ①物忘れ外来受診初診患者での「ABCスケール」および他スケールの比較検討
- ②新型コロナウイルス感染症の高齢発症者の臨床的特徴の検討

(6) 消化器・一般外科

[消化器・一般外科]

1. 高齢者の至適外科治療戦略；

平均寿命を越える超高齢者の外科治療の機会が増加しているが、適応、術式、周術期管理についての一定の見解はない。そこで下記の臨床研究を計画。

- ①腫瘍学的（長期成績）、合併症（短期成績）からみた至適リンパ節郭清研究（胃癌、大腸癌）。
- ②術後ADL維持のための多職種による周術期プログラム（術前術後の筋力維持のためのリハビリ、栄養管理、社会的支援など）。

2. 患者背景を優先した化学療法；

- ①併存疾患を有する、あるいは75歳以上の高齢者に対する化学療法について、用量や投与スケジュールは、ガイドラインにも示されず、個々のケースにおいて主治医の判断によってなされる。併存疾患を有する、あるいは75歳以上の高齢者に対する化学療法について至適投与スケジュールを、腫瘍縮小効果、予後、合併症（QOL）などから包括的に検討。
- ②医師、薬剤師、看護師、訪問看護師からなる多職種チームによる外来化学療法の有効性と課題。

3. 高齢者肛門疾患に対する至適術式；

75歳以上高齢者は、直腸の貯留能、骨盤底筋群、括約筋などの排便機能低下を有する。高齢者は併存疾患もあり、可及的に侵襲を小さくする必要がある。短期（合併症）、長期（再発再

燃、QOL)からみた至適手術術式を検討する。特に直腸脱手術における、Delorme 手術、Altemeire 手術の選択における有用な因子を探索する。

4. 下肢静脈瘤に対する低侵襲手術治療；
下肢静脈瘤に対する RFA による低侵襲手術治療を短期長期成績から評価。
5. 外科研修における早期からの難手術執刀の有用性と問題点の研究；
外科志望者の減少が著しい。技術取得に長期間を要することも一因である。研修早期の段階から、高難度手術も含めた執刀を経験することは、修練医のモチベーションとなり、技術獲得が早くなる可能性がある。一方合併症の増加が危惧される。そこで、当院で行っている若手外科医が執刀、学会認定教育医が第一助手として指導する体制の有用性と課題を検討。
6. 上部消化管手術における栄養管理の研究；
 - ①上部消化管手術においては各種栄養素の消化吸収が劇的に変化するが、亜鉛など微量元素の変動は未知の部分が多い。周術期、術後の血清亜鉛濃度を測定し、亜鉛補充の必要性を明らかにする。
 - ②医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士からなる多職種チームで日本版 ERAS である ESSENCE プロジェクトに準じた栄養管理の有用性について検討する。
7. ICG 蛍光法による腸管血流測定の研究；
消化管再建（吻合）における、血流からみた肉眼的安全視認部位と、ICG 蛍光法による血流確認部位の比較検討を行っている。本年も継続。
8. 腹壁閉鎖手技の研究；
外科的感染（SSI）の高頻度な腹部汚染手術における、皮下筋膜および真皮縫合を抗菌縫合糸による連続縫合で行うことの SSI 予防効果を解析している、中間成績を報告した。症例数を重ねて解析予定。

[乳腺外科]

1. ICG 蛍光法によるセンチネルリンパ節生検手技の工夫とその評価。
2. Stathmin1, Survivin 遺伝子の乳癌における予後因子、治療効果予測因子としての意義に関する研究；国際医療福祉大学病理部と共同研究。
3. 乳腺 Neuroendocrine carcinoma の臨床病理学的検討；
病理科 故藤原睦憲先生との共同研究結果解析。

(7) 脳神経外科

- ①急性期脳梗塞に対する急性期血栓回収療法を行う体制の確立
- ②頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術を行う体制の確立
- ③急性期脳梗塞患者に対する画像診断の検討と体制の確立
- ④髄膜腫に対する開頭手術時の術中出血量の減少を目的とした術前栄養血管塞栓術の利用と検討
- ⑤経頭蓋酸素飽和度測定装置を用いた血行再建術の周術期合併症の予測と検討
- ⑥コロナ禍における急性期脳卒中患者の対応の検討

(8) 整形外科

- ①膝関節外科における新しい治療法の研究（柳澤克昭）
- ②大腿骨近位部骨折成績不良例の検討（ローテーター）
- ③大腿骨頸部骨折に対する治療；各種人工骨頭置換術の成績比較（ローテーター）
- ④MAKO robotic surgery TKA における問題点と解決法の検討（柳澤克昭）

(9) 皮膚科

- ①皮膚疾患における光線療法（ナローバンド UVB, エキシマライト）の有効な治療方法の確立と効果の検討
- ②アトピー性皮膚炎における新しい治療の検討（生物製剤、シクロスポリン、光線療法など）

- ③尋常性乾癬における生物製剤、免疫調整剤の適切な使用の検討
- ④薬疹における原因薬剤の同定と服薬指導による予防
- ⑤接触皮膚炎や食物アレルギー、アナフィラキシーにおける原因物質の同定と生活指導
- ⑥BHD 症候群における皮膚症状の病理学および疫学的研究、診断基準の確立
(気胸センターとの共同研究)
- ⑦結節性硬化症の皮膚病変に対するラパリムスゲルの有効性の検討
(気胸センターとの共同研究)
- ⑧褥瘡における創傷被覆剤、持続陰圧吸引療法、外用剤の適切な使用の検討
(褥瘡委員会との共同)
- ⑨ウイルス性発疹症、劇症型溶連菌感染症、疥癬の適切な診断と感染防御対策の確立
(感染委員会との共同)
- ⑩がん治療に使用する分子標的薬の皮膚障害に対する予防的治療の検討
(外科、薬剤科との共同)
- ⑪人工関節置換術前の金属パッチテスト施行による金属アレルギーの予防
(整形外科との共同)

(10) 泌尿器科

- ①光選択的前立腺蒸散術の臨床成績の集積および 2017 年から新規導入した術式
(Vaporization and resection 法) の検討
- ②光選択的前立腺蒸散術における射精温存術式の検討
- ③去勢抵抗性前立腺癌に対する新規治療薬 (エンザルタミド、アビラテロン、カバジタキセル、塩化ラジウム) を組み入れた治療戦略
- ④PSA 高値症例に対する不必要な前立腺生検を回避するための MRI 検査の評価
- ⑤腎細胞癌の集学的治療 (手術、分子標的薬) の検討
- ⑥進行膀胱がんに対する放射線化学療法を併用した膀胱温存療法の検討
- ⑦小切開創手術 (根治的腎摘除術、根治的前立腺全摘除術) の展開

(11) 産婦人科

- ①児の出生体重に関する因子の検討
- ②分娩児出血量に関する因子の検討

(12) 眼科

- ①水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術後の眼圧変化
- ②白内障術後屈折変化に影響する眼内レンズの特性
- ③Vogt-小柳-原田病患者の長期予後について
- ④病的近視眼における点状脈絡膜内層症の発症機序解明

(13) 放射線科

- ①WBC、CRP 正常下での全身 CT による炎症検索の必要性の検討
- ②他検査を考慮せず(行わないで)、CT のみを行った症例での有病率の検討(特に腹部疾患)

(14) 麻酔科

- ①喫煙者と非喫煙者における術中制吐薬の有効性の検討
- ②高齢の手術患者における局所麻酔薬による神経ブロックの有効性の検討
- ③非常勤麻酔科医確保とその有効活用に関する検討
- ④医師不足地域への麻酔科医派遣協力システムの検討
- ⑤複数施設での麻酔科医相互補完に関する検討
- ⑥高齢の大腿骨頸部骨折患者の予後に影響する麻酔管理方法の検討

- ⑦高齢者大腿骨頸部骨折患者の手術待機期間と予後の関係の検討
- ⑧救急救命士気管挿管実習時の指導法と挿管成功率の検討
- ⑨術前呼吸機能検査結果と周術期呼吸器合併症の検討
- ⑩同一手術室で手術患者退出から次の手術患者入室までの最低必要時間の検討
- ⑪胸部外科手術と整形外科手術における側臥位手術体位と腕神経叢合併症の検討
- ⑫仙骨硬膜外造影剤を注入した際の造影剤の到達レベルと患者要因の関係について
- ⑬高周波治療による神経根ブロック時、その施行時間と治療効果の関係について
- ⑭うつ状態と疼痛改善の早さに関係性はあるか。K6を用いた検討
- ⑮人工股関節全置換術術中のカクテル注射と全身麻酔からの覚醒時間との関係について
- ⑯大腿骨頸部骨折/転子部骨折患者の術前貧血進行に影響する因子の検討
- ⑰新規上市された麻酔薬「レミマゾラム」による安全な麻酔管理方法の検討
- ⑱新規上市された麻酔薬「レミマゾラム」による超高齢者麻酔管理に及ぼす影響

(15) 病理診断科

潰瘍性大腸炎患者の粘膜治癒評価と尿中プロスタグランジン E 主要代謝産物 (PGE-MUM) の臨床的有用性の検討

(16) 歯科

人工股関節置換術の術後合併症に関連する周術期口腔機能管理の効果について

3. 医療技術部

(1) 薬剤科

- ①薬剤投与による効果・安全性・QOLに関する研究
- ②病院における薬剤師介入効果に関する研究
- ③医薬品安全管理に関する研究
- ④医薬品情報の収集・加工・提供に関する研究
- ⑤後発医薬品切り替えの影響に関する研究
- ⑥院内製剤の安定性に関する研究

(2) 臨床工学科

- ①当院血液透析患者のVA管理について
- ②定期停電から見えてきた透析センター災害マニュアルの問題点及び今後の課題
- ③当院下肢血管内治療の現状
- ④透析センターの清浄化対策 ～システム入替後5年を振り返って～
- ⑤臨床工学科業務の水準化への取り組み
- ⑥当院におけるペースメーカー遠隔モニタリング業務の現状と今後の課題
- ⑦MACT (モニタアラームコントロールチーム) 設立に向けた現状での問題点および対応策の検討
- ⑧人工呼吸器の二次感染に向けた排気対策
- ⑨EVT 施行時におけるレーザー血流計の使用経験
- ⑩手術室業務の現状と今後の課題 ～タスクシフト対応に向けて～

(3) 臨床検査科

[生化学・免疫]

単位・基準値・測定方法など国際化に向けての取り組み

[輸血]

- 1. 輸血後感染症検査の意義について周知し、受診率向上をめざす
- 2. 時間外輸血検査の自動化に向けた検討・運用実施

3. 適正輸血実施のための取組
 - 過剰依頼の抑制
 - 輸血製剤廃棄率の改善
4. 輸血の安全運用についての広報。
 - 製剤の正しい取扱いなど
5. 輸血副作用（TACO・TRARI 等）の周知
6. 輸血副作用が発生した場合の適切な運用をめざす。

[細菌検査]

感染症（耐性菌）に関する医療スタッフへの教育（継続）、適切な検体採取および検体搬送の周知

[病理]

報告漏れ・報告遅延防止への取り組み

[採血]

1. 採血管準備装置導入後の有効性を探る。
2. 一人ひとりの採血の技術の向上、待ち時間軽減への取り組み

[一般]

体腔液検査の判定方法の統一化

[血液]

朝の病棟検体の迅速な処理およびデータを正確に送信する取り組み。

(4) リハビリテーション科

- ①THA 患者に対する動的バランス練習の影響（術後 3 か月までの検討）
- ②大腿骨近位部骨折術後患者の入院中から退院時の歩行・ADL と退院 1 年後の死亡や骨折の予測因子の検討
- ③THA の独歩開始基準について
- ④TKA の T 字杖開始基準及び階段昇降に関する検討
- ⑤入院中の呼吸器疾患患者の筋力と移動能力の関連
- ⑥肩装具-オットーボック-の当院での取り組み
- ⑦脳卒中者の自動車運転実車評価、その後の追跡調査
- ⑧回復期リハビリテーション病棟における活動量の変化に対応した栄養介入の効果

(5) 放射線科

1. 線量管理

2020 年 4 月の医療法改正により、診療用放射線の安全管理が義務付けられた。その中の 1 つとして検査単位での線量管理がある。当院においては CT 検査及び血管撮影装置が該当する。管理方法としては、1 検査あたりの CTDIvol 及び吸収線量をガイドラインである診断参考レベル（DRLs）と比較検討を行って、最適化を図る事になる。さらに 2021 年度購入予定の線量管理システムを使用して、検査単位での比較及び考察を行い、最適な撮影条件を求めていく。

2. CT 検査プロトコルの検討

2018 年に購入した CT 装置には様々なアプリケーションがある。ハード面においても旧 CT と比較するとかなりアップグレードされている。現在主流の低管電圧撮影、小焦点撮影は分解能の向上及び造影剤などの減量が可能であり、当院の CT でも充分対応可能となっている。今後は検査部位ごとにプロトコルを見直し、臨床に役立つ画像の提供をしていきたい。

3. マンモグラフィー施設画像評価認定の取得

マンモグラフィー検診及び診療には良いマンモグラムを確保することが重要である。撮影装置の使い方や条件についてしっかり準備等を行い、日本乳がん検診精度管理中央機構の審査を受け認定を取る事を目標とする。

4. 看護部

- ①特定行為研修修了者の実践事例
- ②介護職のリリーフ業務のシステム化
- ③分析ツール（セコムスマッシュ）を活用した病棟運営
- ④副師長が行う新人看護師のエンパワーメントを引き出すプログラムの実践と評価

II. 佐倉厚生園病院

1. 代謝内分泌科

- ①動脈硬化症と糖および血清リポたんぱく代謝の研究
- ②療養病棟における血糖管理

2. NST 委員会

慢性期療養型病棟に入院中の後期高齢者・超高齢者に対する NST 介入に伴う症例研究

3. 薬剤科

- ①高齢者の在宅支援における退院後の服薬状況実態研究
- ②ポリファーマシーに対する症例研究

4. リハビリテーション室

- ①回復期リハ退院後患者の追跡調査及び症例研究
- ②森林浴による健康増進及びリラクゼーション効果

5. 回復期リハビリテーション病棟

回復期リハ病棟における看護介入効果と自立度の相関研究

6. 退院支援室

慢性期医療の退院支援効果と症例研究

7. 看護部教育委員会

看護研究

III. 佐倉ホワイエ

老健施設の活動による心の活性化

IV. 玉川クリニック

1. 禁煙対策に関する研究

- ①禁煙外来受診者にたいする治療終了後の再喫煙調査（継続）
- ②動脈硬化の危険因子としての喫煙と生活習慣病との関連についての研究（継続）

2. 遷延性咳嗽患者の早期診断と治療に関する研究—玉川病院呼吸器内科との共同研究—

- ①呼気NO検査の有用性についての研究（継続）
- ②咳喘息患者のICS/LABAの投与期間についての研究

3. 当クリニックにおけるベンゾジアゼピン系睡眠薬服用者の実態調査と非ベンゾジアゼピン系睡眠薬への切り替えについての研究

4. ストレスによるうつ病患者の職場復帰支援プログラムツールとして自律神経機能測定器の有用性についての研究

V. 診療所

1. 玉川病院外科と協力し、超悪玉コレステロール Small Dense LDL Cholesterol (sd LDL-C) と動脈硬化リスク因子との関連性についてデータの収集と分析を行い、学会発表を行う。
2. 数理医学分野では継続的に東京大学医学部代謝生理化学教室研究会への参加および発表を行う。
3. 顔面骨形成について、基礎医学である発生学と耳鼻科領域の臨床医学との接点を探究する。
4. 膵管内乳頭粘液性新生物（IPMN）患者のスクリーニング追跡調査への準備を行う。